

2024 年 12 月 31 日

2024 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 社会福祉法人カリヨン子どもセンター

ホーム名 カリヨンタやけ荘

代表者・役職名 氏名 ホーム長 万治貴史

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

今こそ石川へ！～タやけ荘 2 泊 3 日の夏旅行～

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2004 年に NPO 法人カリヨン子どもセンターを設立。子どもシェルター等でケアを受けた後に就労自立を希望する子どもたちのための自立援助ホームカリヨンタやけ荘を 2006 年 3 月に開設。定員は女子 6 名。職員 5 名、日勤ボランティア 3 名体制。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

虐待や貧困など、様々な事情で当ホームに入居している子ども達ですが、家族旅行未経験者も少なくありません。また、近年はコロナ禍で中高校生時の修学旅行等が中止、縮小になった者がほとんどです。ホーム退居後に社会で生活していく上で、社会経験の豊富さが余暇活動やコミュニケーションの幅を広げ、人生の豊かさにつながると考えます。入居者同士や職員と、長時間行動を共にすることで相互理解が深まり、今後の関係構築に役立ちます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2024 年 9 月に石川県に 2 泊 3 日で旅行に行く。名勝地を訪れ、伝統文化体験や土地の名産を食す等の経験を積む。新幹線やホテル等の公共機関の利用について経験を積む。予約サイトの利用方法を教え、旅程の検討を入居者と一緒に進める。

能登半島地震で被害のあった地域を訪れ、自然災害を他人事と捉えず、防災意識を高める。離れた地域でも「自分にできること」を考えるきっかけとしたい。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

宿泊ホテルや現地のプログラム検討段階から、入居者にも協力してもらいながら情報収集や予約手続きを進め、東京で開催された復興支援イベントに参加したり、現地の復興状況等を調べたりもしました。

現地でのプログラムは自由行動の時間も多く取り、各自に計画してもらいました。

金沢を訪れるのが初めての者ばかりでしたが、旅行自体への意欲、他の地域への関心が高まり、次回石川県を訪れた際は能登地方に行ってみたい等と話してくれました。

今回の経験はホームから自立し、社会で生活する上で自分自身や周囲の方にとって有効に作用するものと期待しております。

また外泊行事の同行が初だった職員にとっても、ホームとは違った利用者との関わり、共通の体験や思い出ができたことでの関係構築等、収穫の多い機会となりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

事業実施期間(9月21日～23日)に能登地方が豪雨災害に見舞われ、2日目のスケジュールを急遽大幅に変更することとなり、支出額が当初の予定よりも大幅に下回ってしまいました。前日に代わりに実施できるプログラムを組む等して対応しました。

当初の予定とは異なりますが、自然災害を身近に感じる機会にはなりました。

事業終了後は友人との旅行の際に経験が役にたったり、一人旅への関心が深まったりと変化が見られました。

被災地域に関するニュースやSNSの情報についても事業実施前よりも現実的な目線で考え、現地で生活する方を心配する声も聞かれました。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

